

令和7年度 市岡東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 市岡東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年 4月17日	学校	96	52	54	4.7	6.9	534	
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489	
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年 9月2日	学校	103	65.2	53.6	59.3	52.0	55.9	3.9	3.3	10.3	4.9	4.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年 1月14日	学校	108	66.2	42.8	59.1	51.5	58.0	5.8	5.1	9.0	3.2	4.7
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年 1月14日	学校	106	61.4	59.9	56.5	83.6	72.0	8.1	1.7	6.2	1.1	2.8
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年 10月21日	学校	101	110.1	107.6	156.2	100.3
	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点 (点)
			(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	
2年 男子	学校	99	23.31	40.00	50.37	92.42	—	7.83	187.28	22.69	40.91
	大阪市	—	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	19.76	40.67	43.28	55.53	—	9.08	162.73	12.89	45.88
	大阪市	—	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	162.73	12.43	47.58

令和7年度 市岡東中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【1, 2年チャレンジテスト】

【成果】

○1年生は英語が府平均を大きく超え、理科は市平均(63.0%)を20ポイント以上上回る83.6%であった。社会も市平均を上回っている。2年生は国語、数学、理科、英語の4教科で府平均を上回り、特に数学(59.1点)や英語(58.0点)で良好な結果を示している。全体として英語の学力が府・市の水準と比較して、3学年通して一貫して高く、本校の強みといえる。

○先生方が教育熱心で、定期テストの補習や再テストが頻繁に行われている。また、生徒同士が小テスト前に一問一答を出し合うなど、仲良く高め合う学習環境が整っている。

○いじめは「本当に聞かない」と言われるほど少なく、先生方がいじめを許さない姿勢で、相談した際の手厚いサポート体制がとれており、アンケート結果に表れている。

【課題】

○1年生の国語(61.4点)と数学(56.5点)が府平均を下回っており、2年生の社会(42.8点)も府平均に惜しくも届かず、地理・歴史の両分野で資料を読み解き考察する力に改善の余地がある。

○国語は漢字や語句の反復学習を徹底し、基礎の定着を図ります。社会や数学では、図表から情報を抽出し、自分の考えや解決過程を論理的に記述・説明する言語活動を授業に積極的に取り入れていく。

【3年GTEC】

【成果】

4技能の総合スコアは476.4点であり、大阪市の平均値(475.2点)を上回っている。特にライティングは156.2点と、市平均の146.4点を約10点も上回る顕著な強みを見せている。また、一般的に課題となりやすいスピーキングにおいても100.3点を記録し、市平均の98.4点を越えている。全体として、市内の平均的な水準と比較して、英語での発信技能に優れた成果が出ている点が大きな長所である。

【課題】

リーディング(110.1点)とリスニング(107.6点)が、それぞれ市平均(117.4点、110.2点)を下回っている。また、読解速度(WPM)が前年度の52.8から50.6へ低下している点も課題である。

読解では接続詞に注目し、文の論理的つながりや段落の要点を捉える練習を強化する。リスニングは「意味のまとまり」で区切り状況をイメージする習慣をつけ、受信技能の底上げを図っていく。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

【成果】

○男子は握力(平均29.30kg)、20mシャトルラン(平均92.42回)、50m走(平均7.83秒)の3項目で全国平均を上回っている。女子も握力(平均24.84kg)と20mシャトルラン(平均55.53回)で全国平均を上回る好成績を収めている。特に男女ともに、呼吸循環器系の持久力を示すシャトルランの結果が全国平均を大きく超えている点が、本校の顕著な強みと言える。

○学校側のアンケート結果によると、生徒が授業を楽しんでいると感じる主な理由は以下の通り。

・体の変化や達成感: 体を動かしてすっきりした気分になったときや、できなかったことができるようになったとき。

・多様な体験と向上心: いろんな種目を体験したり、記録に挑戦して向上したり、競い合ったりすること。

・対人交流: 友達と交流したり、協力したりして活動すること。

また、授業の中で目標(ねらい・めあて)を意識したり、友達と助け合ったり教え合ったりすることも、生徒の「分かった・できた」という実感に繋がっている。

○生活習慣の特徴

・朝食: 男子の84.6%が毎日食べており全国平均(81.9%)より高いですが、女子は68.1%で全国平均(74.4%)を下回っている。

・睡眠時間: 1日7時間以上8時間未満と回答した生徒(男子38.5%、女子37.0%)が最も多いボリュームゾーンとなっている。

・スクリーンタイム(平日): 学習以外でテレビやスマホ等の画面を見る時間は、1日2時間以上3時間未満の生徒(男子30.8%、女子25.5%)が比較的多い。

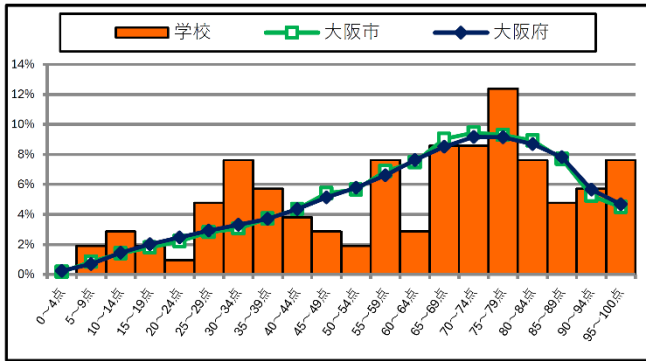
【課題】

○呼吸循環器系以外の競技の力をつける。

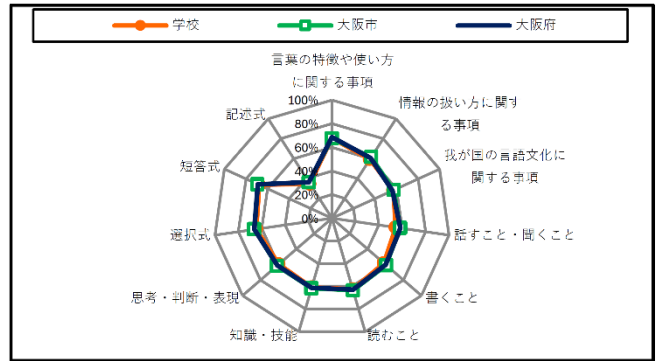
○テレビやスマホ等の画面を見る時間を減らしていく。

【国語】

【得点分布】

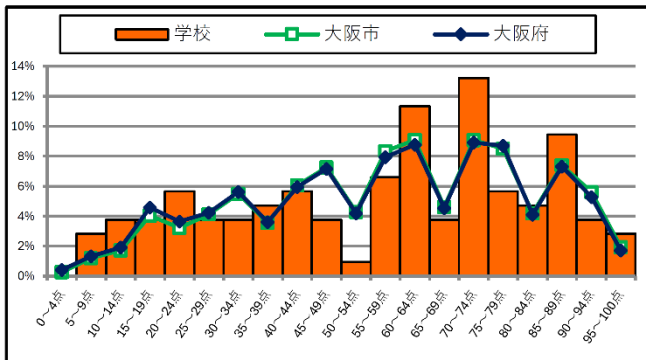


【内容・観点・問題別の分布】

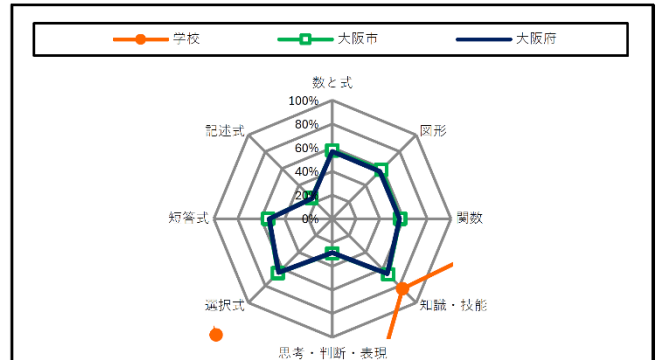


【数学】

【得点分布】

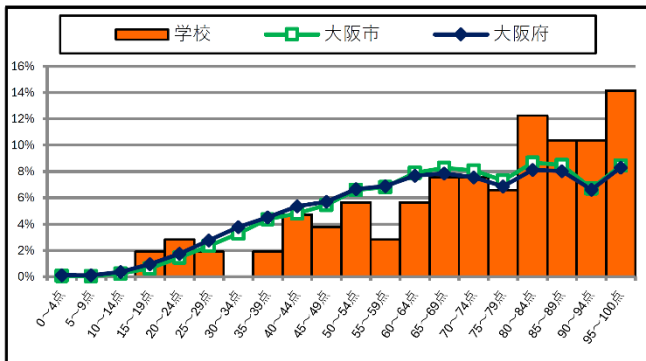


【領域・観点・問題別の分布】

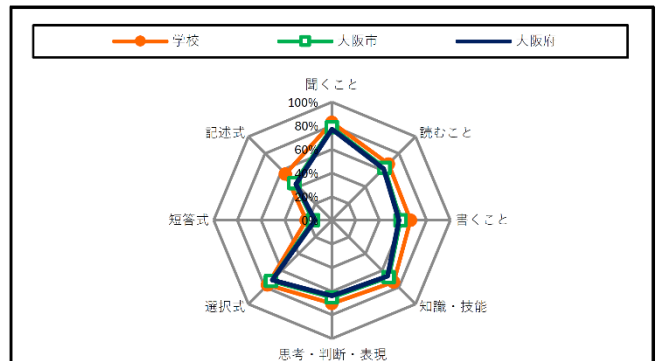


【英語】

【得点分布】

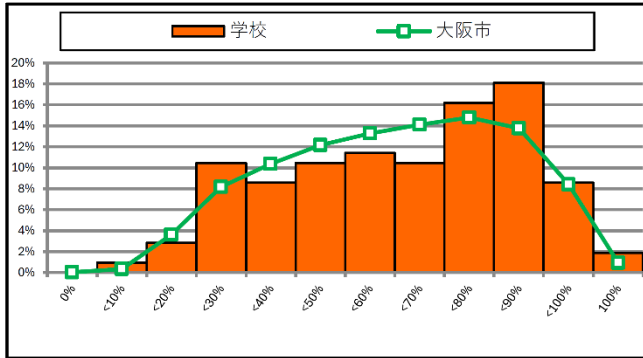


【領域・観点・問題別の分布】

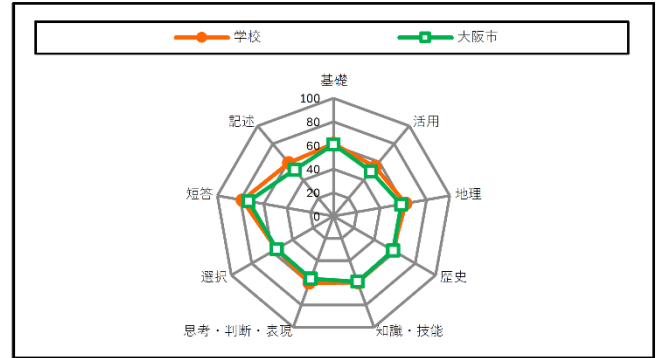


【 社 会 】

【正答率分布】

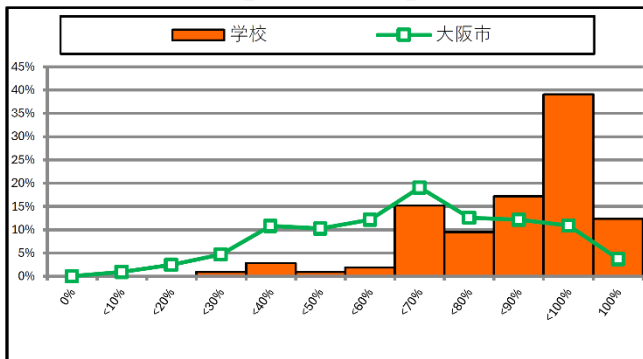


【領域・観点・問題別の分布】

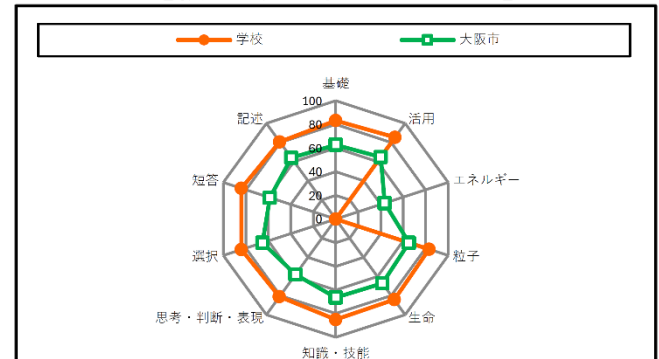


【 理 科 】

【正答率分布】



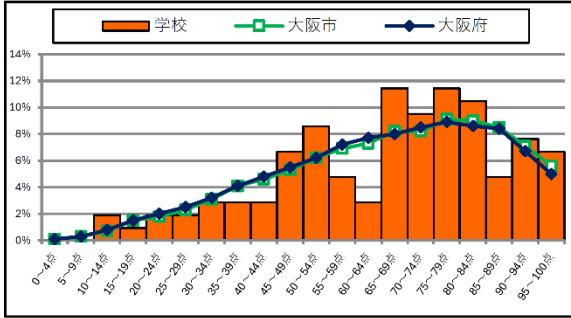
【領域・観点・問題別の分布】



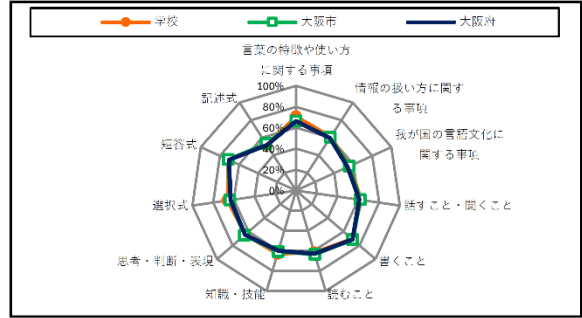
※「エネルギー」と「粒子」はいずれかを学校で選択しています。

【国語】

【得点分布】

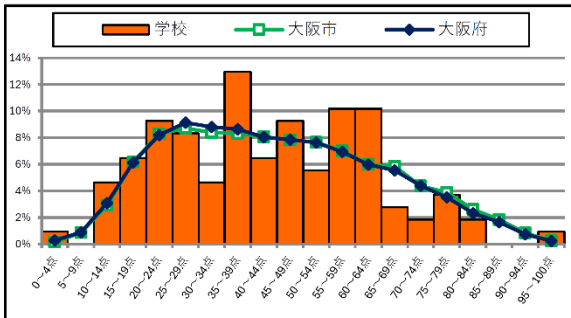


【内容・観点・問題別の分布】

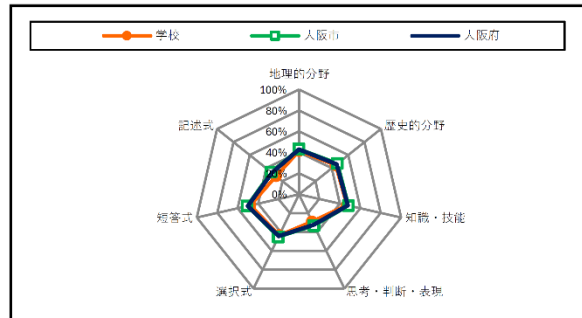


【社会A】

【得点分布】

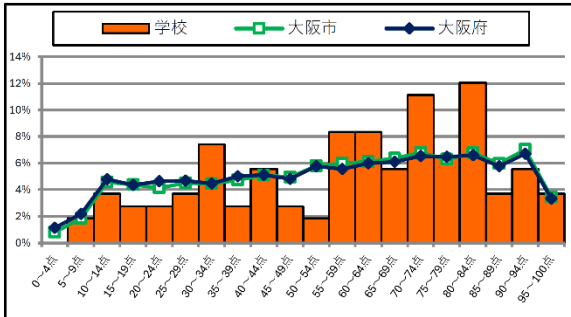


【領域・観点・問題別の分布】

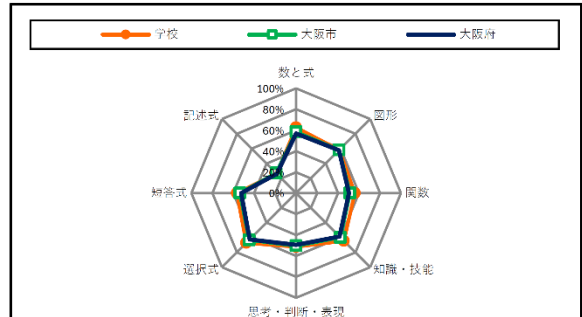


【数学】

【得点分布】

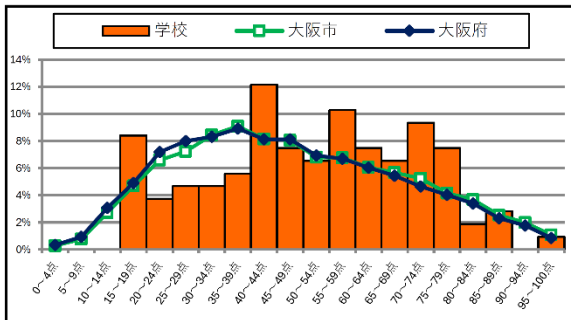


【領域・観点・問題別の分布】

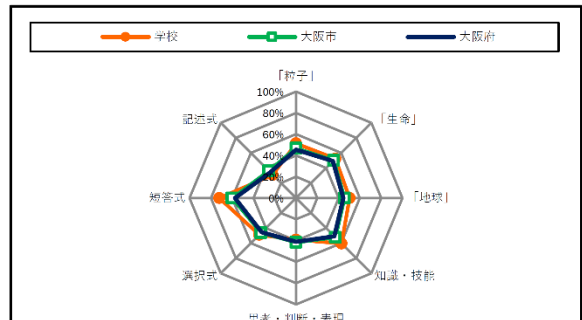


【理科】

【得点分布】

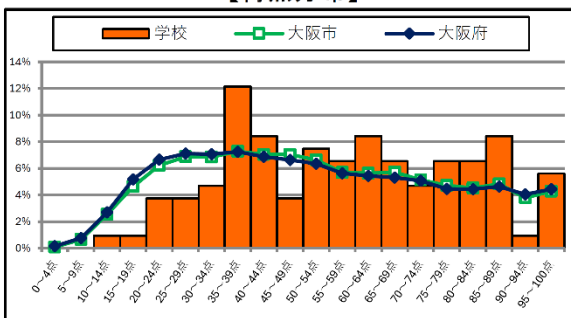


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

